

朝河貫一博士生誕150年記念・「報恩之辞」奉呈120年記念

**「子どもたちを育む活動」のふりかえり**

2023年（令和5年12月）

**かがやく笑顔！～地域の皆さんに育まれて健やかに成長する子どもたち～**立子山ふれ合いデーで「朝河太鼓」を初披露（令和5年6月3日／立子山小学校）

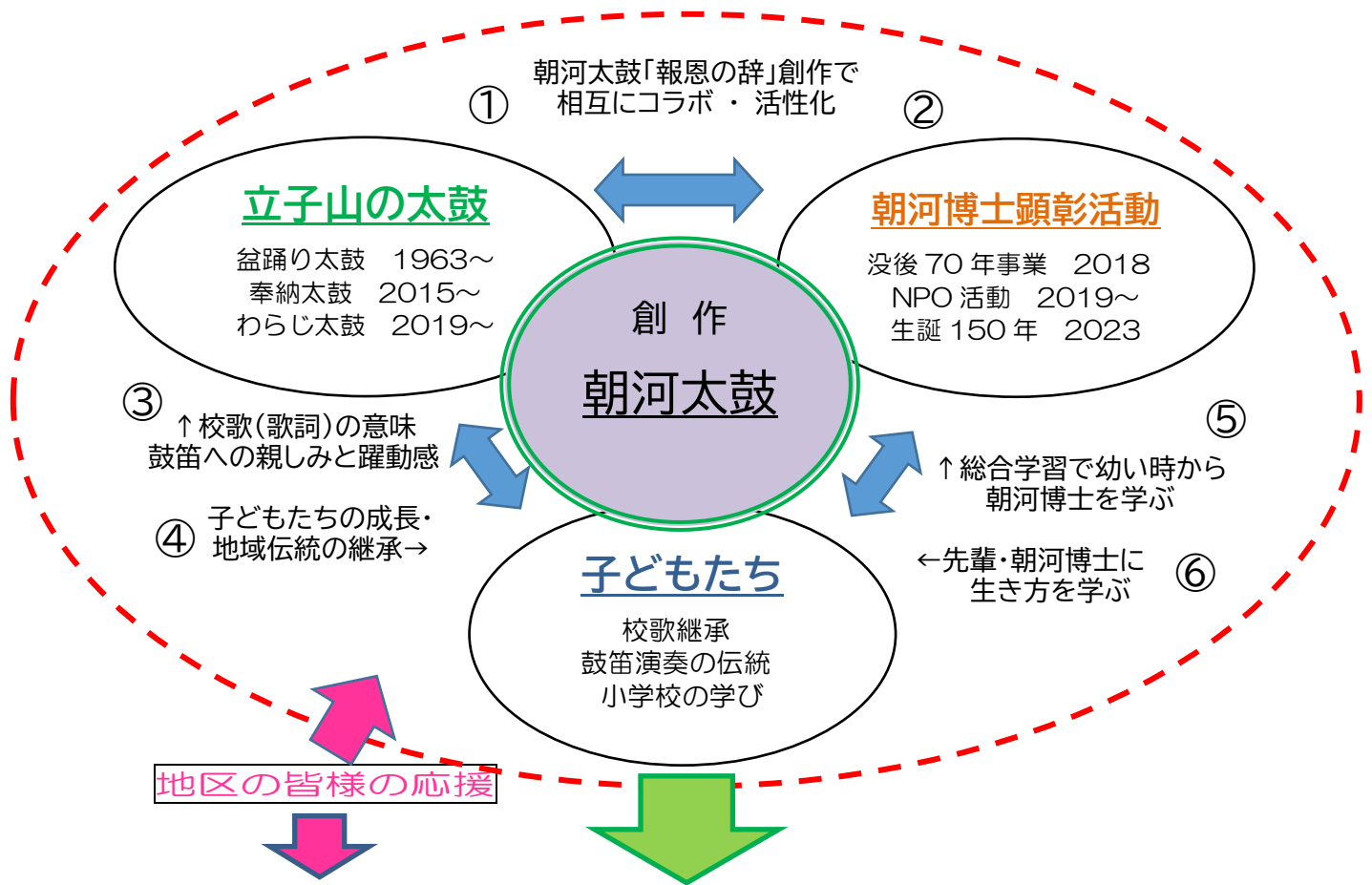
今年は、朝河貫一博士の生誕（1873年＝明治6年12月）から150年となり、さらに、博士の父正澄先生が立子山小学校の校長を退職した時（1903年＝明治36年10月）に立子山村民から「報恩之辞」が贈られ120年の節目となる、記念すべき1年でした。

また、立子山小学校は博士誕生の翌年、1874年8月25日に創立。伊達郡立子山村立立子山小学校の時代を経て、1955年7月に立子山村の福島市編入時に、現在の福島市立立子山小学校となりました。間もなく小学校創立150周年を迎えます。

朝河博士顕彰活動にとって記念すべき今年、博士の母校の後輩である立子山小児童や卒業生により、世界にただ1つの「朝河太鼓」を平和の象徴として創作・演奏したほか、顕彰活動を通じ、かすかすの「子どもたちを育む活動」を行ってまいりました。年末となる節目にこの1年を振り返り、子どもたちの成長のようすをご紹介いたします。

**発行** 立子山地区青少年健全育成推進会・NPO法人地域のみんなのチカラ・立子山奉納太鼓伝承会  
**協力** 立子山太鼓保存会・立子山地区ふくしま共創のまちづくり計画推進懇談会・立子山支所・立子山小学校

「地域の3つの誇り」相互のコラボレーション！



「地域の誇り」の再認識と醸成 ・ 地域をさらに元気に  
子どもたちを健やかに育む ・ 伝統の継承 ・ 立子山の発信

立子山の3つの大切な宝である「太鼓活動」と「朝河博士顕彰活動」、「子どもたち」が相互にコラボレーションすることで、子どもたちを健やかに育み、コロナ禍の3年間、少しだけ元気をなくしがちだった地域を「ビヨンド・コロナ」＝コロナを越えて元気にすることを目指しました。

同時に、これらの「地域の誇り」をみんなで再認識し、醸成させ、後世へ伝承すること。これらが、世界にただ1つの「朝河太鼓」を平和の象徴として創作したねらいです。

創作は、まだ寒い1月より多目的集会所に集まって開始。立子山の子どもたちにしかできない取り組み（オンリーワン）、立子山の子どもたちが取り組むからこそ意義がある活動（ナンバーワン）となるよう進めてまいりました。

完成後は6月の「ふれ合いデー」で地域の皆さんに初披露したほか、地区内外で発表の機会をいただき、子どもたちの成長につなげました。

## 『朝河太鼓』の構成

○太鼓の構成：立子山小校歌等をモチーフに演奏（約4分）

表現① 朝河太鼓第1部「立子山小校歌～緑の風～」

- ・朝河貫一博士を育んだ「立子山の自然」（＝風・咲き誇る花々・清い空と光）
- ・博士を導き、博士が歩んだ「一筋の学びの道」
- ・博士が目指した「明るい日本を開く」

表現② 朝河太鼓前奏・中間演奏「希望と躍動」：鼓笛演奏曲ドラム・マーチ

表現③ 朝河太鼓第2部 鼓笛演奏曲「ビリーブ」より

- ・朝河正澄先生への「感謝」「憧れと愛しさ」「未来への扉」

立子山小学校が朝河博士の母校であることから、「朝河太鼓」には、その校歌をモチーフにするのがふさわしいと考え、校歌の歌詞に込められた意味合いが、太鼓に脈々と流れるよう配慮しました。そのため「鼓笛のリズム」を和太鼓に取り入れ、「校歌の意味合い」を映し出すこととしました。

同じく、子どもたちに親しみ深いドラムマーチのリズムも前奏と中間演奏に加え、「希望」と「躍動感」を演出。さらには、鼓笛曲「ビリーブ」の一節も太鼓に加え、立子山村民が薫陶を受けた朝河正澄先生への、「感謝」、「憧れと愛しさ」、「未来への扉を開く」などの思いを込めました。



創作・練習風景(R5年2月、3月／多目的集会所)

## 「朝河太鼓」披露のふりかえり



立子山ふれ合いデー 6月3日(土) 立子山小体育館

### ふれ合いデー当日・発表をご覧になってのご講評

4年ぶり市街地開催の5月の鼓笛パレードでも、本校児童10名の素晴らしい演奏を拝見しました。本日も、まずは前段の「朝河カルタ」を通して、貫一博士と正澄先生のことをしっかりと学んでいる様子が良く分かりました。そして「朝河太鼓」。子どもたちの心が1つになった素晴らしい演奏で、これまで一生懸命に頑張ってきた努力が伝わりました。子どもたちの演奏からたくさんの勇気と元気をもらいました。地域の方々の応援があって、今日の子どもの姿があります。この誇りの継承がこれからも続きますことと、子どもたちの活躍、地域の発展を祈ります。（福島市教育長 佐藤秀美さん）



本日の発表を見て、大変素晴らしい創作太鼓に感動しました。そのひと言につきます。1月から多目的集会所で練習し、創作を重ねてきましたが、私が訪問、激励した際も、子どもたちが本当に真剣なまなざしで、立子山のために、朝河博士のために取り組んでいました。その結果が、今日この発表となりましたことに、心から拍手を贈ります。私は「立子山の風、力強さ」をご来場の皆様と共に感じました。貫一博士も、空の上から大きな拍手を贈っていると思います。子どもたち、本当にありがとう。

（立子山自治振興協議会会長（ふれ合いデー開催当時）宝槻直志さん（故人）  
〈謹んで宝槻さんのご冥福をお祈りいたします〉

